

讃 樹 會



医学部正門

香川大学医学部医学科同窓会報

目 次

1 年頭挨拶	濱本龍七郎先生..... 1	7 教授就任挨拶	
2 総会開催のご案内..... 2		形成外科学教授	井川 浩晴先生.....18
3 会長立候補所信表明	高橋 則尋先生..... 4	8 大学ニュース.....20	
4 就任挨拶		9 特集「教授の横顔」シリーズ	
香川大学学長	木村 好次先生..... 5	生化学	上田 夏生先生.....21
香川大学副学長	竹内 博明先生..... 6	泌尿器科学	寛 善行先生.....23
医学部長	岡部 昭延先生..... 7	小児科学	伊藤 進先生.....25
医学部附属病院長	長尾 省吾先生..... 8	総合診療部	千田 彰一先生.....27
5 香川大学学部長挨拶		臨床検査医学講座	田港 朝彦先生.....29
教育学部長	加野 芳正先生.....10	分子細胞機能学	中村 隆範先生.....31
工学部長	石川 浩先生.....11	10 保育所アンケート集計結果.....33	
農学部長	一井真比古先生.....12	11 国外留学助成金の募集と結果.....39	
6 退官挨拶		12 事務局からのお知らせ.....40	
高岩 堯先生..... 14		13 編集後記.....41	
高原 二郎先生.....15			
形成外科学	鈴木 茂彦先生.....16		

新年を迎えて

名誉会長 濱 本 龍七郎

(昭和六十一年卒)



新春を迎え、同窓会の皆様には謹んでお慶びを申し上げます。

昨年十月に統合香川大学が発足し、新たな歴史の一步が刻まれ、また、本年四月から独立法人化という大学改革が幕開けし、加えて、卒後教育制度はスーパーローテーションという新しい試みがなされます。単科大学から総合大学となり、医科大学は医学部へと変化致しました。

社会保障の充実は必須ですが、それも脅かされ、中でも医療を取り巻く現状は一層厳しくなっております。患者のニーズは多様化し、その眼も日増しに厳しくなっており、インフォームドコンセントの重要さを日々認識させられます。医学部附属病院も独立法人化の下、病診連携の重要性と安全かつ経済的な医療を再認識する必要がありますでしょう。また、医学部として研究・教育において地域連携が望まれるでしょうし、優秀な医師の輩出という事が期待されるでしょう。

今後、医師一人一人に何が求められているのか、何をなすべきなのか、重要な課題は山積みされ、決して安穩としてはいられないと

考えます。「見ザル、聞かザル、言わザル」の年とは言ってはおれぬ状況であり、「見て、聞いて、言わなければ」ならない年でしょうか。むしろ、渡辺淳一氏の言う「エ・アロールの生き方」が必要なのでしょうか。自問自答の毎日です。

香川医科大学同窓会も大学統合と同時に香川大学医学部医学科同窓会として名称を変更し、今後どうあるべきか、何をなすべきか、やはり、医学部の発展、そして大学の発展に寄与できるよう一致団結し、木村学長・岡部医学部長・長尾病院長・教授会に少しでも手助けしなくてはならないでしょう。

また、これから始まる卒後教育において、大変ご苦労される指導医の皆様には敬意を表し、その中で活躍される研修医の皆様にも目を向け、準会員である学生の皆様へ将来の指針となるようなアドバイスを与えなければなりません。

同窓会も高橋会長を中心として慌てず、騒がず、私達の同窓会らしく活動したいものです。

四月の総会には会員の皆様多いに参加して活発な意見・議論を交わしましょう。そして、同窓生として肅々と生きたいものです。

皆さん、どうか御参集あれ。

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

第八回総会開催のご案内

本年は、二年に一度の総会が開催されます。同時に、会長の任期満了につき、会長選挙を執り行います。香川大学医学部同窓会として更なる展開、飛躍を目指し、たくさんの方の意見をいただきたいと思えます。ご多忙中とは存じますが、会員の皆様お誘い合わせの上、多数ご出席いただきますようお願い申し上げます。

なお、やむを得ず欠席される正会員の方は、同封の委任状をご送付頂きますようお願い申し上げます。委任状を含め、正会員の十分の一以上の参加が無いと総会が成立しないこととなりますので、ご協力宜しく願います。尚、特別会員、賛助会員、名誉会員、準会員の方には総会での投票権、議決権がございませんので、あらかじめご容赦下さい。

【記念講演】

香川大学長 木村好次先生

日時：平成十六年四月十一日(日)

十五時より

場所：総会 十五時～十六時 臨床講義棟一階

講演会 十六時～十七時 臨床講義棟一階

懇親会 十七時～ 別会場

議題：平成十四・十五年度事業報告

平成十四・十五年度決算報告

会長選挙

平成十六・十七年度予算案

理事会からの審議項目

会長選挙について

同窓会報平成十五年九月号でお知らせ致しました任期満了に伴う同窓会会長の選挙告示に対し、立候補者が高橋則尋現会長のみとなりましたので信任投票を行います。投票方法は、総会ご出席の方は当日会場で、また、ご欠席される方は郵便投票にて必ず投票をお願い致します。(「郵便投票の方法」参照)

選挙管理委員会 委員長 乾 政志

学年理事の推薦

学年理事の任期が二年経過し、新しい学年理事の選出が必要です。正会員（同年卒）の中から適当と思われる理事の候補を四名推薦して下さい。現在任期中の学年理事の方の名前は左表をご覧下さい。

平成14・15年度学年理事一覧 …執行部

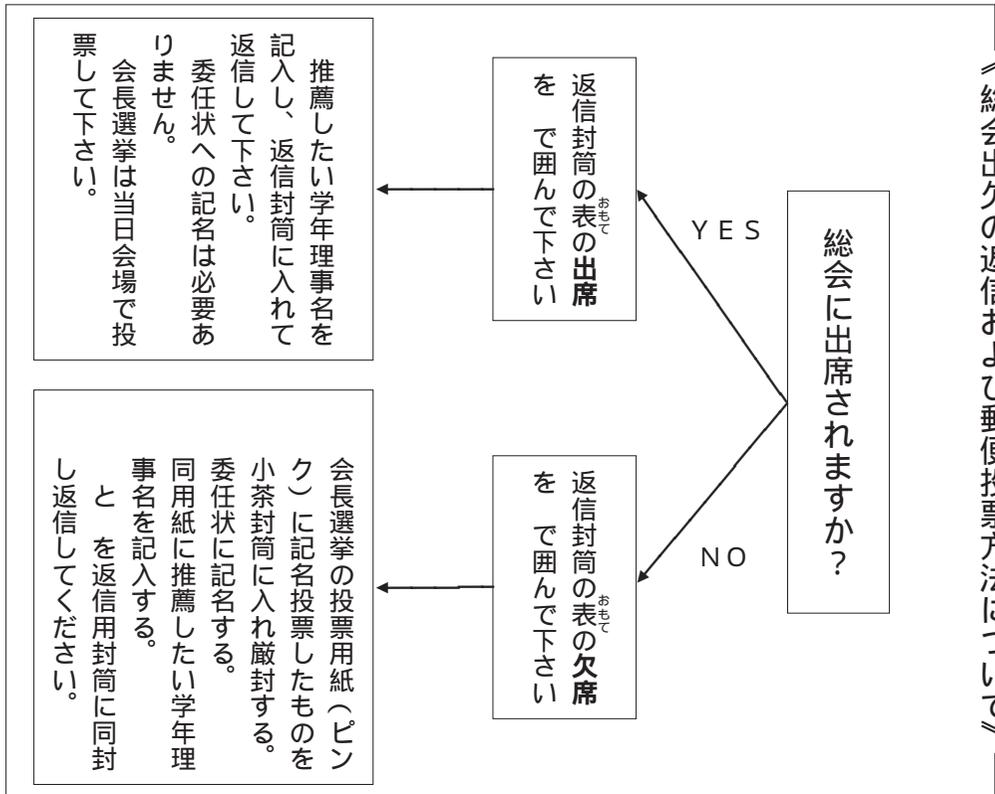
卒年	理事名 (任期中の異動による他府県赴任者や退職者を除く)			
S 61	濱本龍七郎	高橋則尋	木村正司	大森浩二
	平川栄一郎			
S 62	関啓輔	泉佳成	河井信行	
S 63	清元秀泰	伊藤理	田中宏和	外山芳弘
H 1	佐々木潔	佐藤清人	宮本修	
H 2	宮部和徳	西山佳宏	羽場礼次	
H 3	安岐康晴	(院修了)		三木崇範 中條浩介
	武田則昭	坂東修二		
H 4	乾政志	五味徳之	田井祐爾	
H 5	米山弘人	川西正彦	土井朋子	萩池昌信
H 6	石村健	後藤理恵子		
H 7	森上徹也			
H 8	宮下武憲	村田晶子		
H 9	小原英幹	村上和司		
H 10	青山徹	辻哲平		
H 11	加塩裕美子	竹内浩人	松向寺孝臣	
H 12	熊宏美	難波経立	船越文美	
H 13	岡本華代	吉田潤史	佐野貴範	横江弘郁
H 14	池田和代			

讃樹會ロゴマーク再募集について

讃樹會のロゴマークを再募集します。現在二点の応募があります。が、応募の締切を総会間際まで延長しますので、ふるって応募ください。パソコンを駆使したCGから、手書きのラフスケッチまで、形式は問いません。最終的には総会での投票で決定します。その後の修正も可能ですから、母校同窓会のイメージを膨らませていただき、お気軽に応募下さい。締切りまで一箇月あまりですが、たくさんのお募をお待ちしています。

- ・ 応募締切：四月九日（金）到着分まで
- ・ 応募方法：自由投稿（デザインをお送りください）
- ・ 謝礼 …… 一万円

《総会出欠の返信および郵便投票方法について》



返信締切：四月九日（金）午後五時到着分まで有効

香川医科大学医学同窓会会長選挙に
立候補するにあたっての所信表明

昭和 61 年卒 高橋 則尋

私は平成 12 年 4 月から初代濱本龍七郎会長よりバトンを引き継いで、現在 2 期目の会長職をさせて頂いております。在任期間中、わが母校は香川大学と統合されました。さらに来年度には、独立行政法人化、卒前教育の再編成、卒後臨床研修の必須化など今後の大学の行き末を決定するような重大な案件を抱えております。これらの重要事項の推移を見据え、適宜、大学執行部、あるいは教授会に対して同窓会として意見を言い、情報を提供していくためにも従来から濱本名誉会長とともに築いてきた太いパイプを通じて行く所存でございます。

現在、本年 7 月より大学より高松赤十字病院へ転勤しました。学外の教育機関として、香川大学医学部また同窓生の発展のために卒後臨床研修に大学とのパイプ役として、働いております。また、同窓会活動も順調であり何ら支障はありません。

以上、微力ではございますが、建設的な同窓会運営に惜しみない努力をすると表明し、ここに立候補を宣言します。

平成 15 年 12 月 1 日

推薦者

昭和・平成 61 年卒 濱本龍七郎 (龍七)

昭和・平成 63 年卒 清元秀春 (秀春)

昭和・平成 3 年卒 (大学院) 安岐康晴 (安岐)

昭和・平成 9 年卒 松原 啓介

昭和・平成 12 年卒 原 大雅

就
任
挨
拶

はじめてのご挨拶を

香川大学長 木村好次



あけましておめでとうございます。今年が、皆さまにとって良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

昨年十月、香川大学と香川医科大学の統合に際して学長をお引き受けしたばかりですので、まず自己紹介をさせていただきます。

生まれは東京で、小学校の途中から高校の途中まで三重県にいましたが、その後六十までまた東京。香川との縁は一九九七年、香川大学に工学部を作るお手伝いに来て以来のことです。

出身は機械工学ですが、あまりまともじゃない。当時機械工学でまともな連中は、材料力学とか流体力学なんかを専攻したんですね。多くの専攻はトライボロジーといいまして、摩擦とか潤滑などを取り扱う領域です。皆さんの身近な問題としては、人工関節なんかはトライボロジーの応用分野になります。

学長になるときは、自分なりの理念をひっさげて、というのがふつうでしょう。しかし今回は違いました。統合の前に両大学が協議して、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな

専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」という理念を定めるとともに、教育、研究目標と並んで、「知の源泉として、地域ニーズに応えるとともに、蓄積された研究成果をもとに文化、産業、医療、生涯学習等の振興に寄与する」という、地域貢献の目標をかげました。その実現が、学長の任務ということになったのです。

この理念・目標に、それほど特徴があるわけではありません。これはしかたがないことでもあつて、もともと教育の機会均等のために、どの県にも同じような大学を作ったのです。

ところが近年雲行きが変わっています。高校生の数がへって、二〇〇九年には希望者は全員大学へ入れる勘定です。またある調査によると、主要約五〇か国の競争力の比較で、日本の高等教育は四九位という状態になった。これは何とかしなくてはいけない、というので大学改革が始まり、国立大学はそれぞれの特徴を生かして個性化を図れ、ということになったのです。

個性的、というところ、どこが変わっているところを連想するでしょう。しかし大学の個性というのは、そればかりではないと思うんです。

東京から四国へ来て強く感じたことの一つは、四国、あるいは香川という地域に対する意識の強さです。善きにつけ悪しきにつけ、地域としてのかたまりを意識する、叱られるかも知れないけれど、それは一種の離島性といってもいいでしょう。

そういう地域の大学として、教育、文化、医療などをふくむ、複合的な拠点を形作ることで、そのへんに香川大学として持つべき個性があるのではないか、ぼくはいまそう思っています。

統合で一息つくひまもなく、四月には国立大学法人になります。いちばん大きな違いは、経営責任を大学自体が負うことでしょう。報道される運営費交付金への効率化係数の導入など、国立大学の前途は多難です。

統合によって、皆さんの母校となった香川大学です。旧香川医科大学同様、暖かなご支援をお願い申し上げます。

年頭のご挨拶

香川大学副学長 竹 内 博 明



同窓会の皆様、新年明けましておめでとございます。

ここ数年、民族間の対立は絶望的な様相を呈しており、世界の未来も暗雲立ちこめるカオスに向かいつつある昨今であります。今年は何としても平穏な落ち着いた一年であり、平和への道筋が見えてくることを切実に願っております。

昨年十月一日旧香川医科大学と旧香川大学が統合し、新生香川大学が誕生いたしました。また、今年の四月一日を期し、新香川大学も国立大学法人として運営されることとなります。法人化後の香川大学の基本的な目標は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」というものであります。法人化は国立大学が自らの責任において、このような大学の基本

的な目標を達成し、そして、大学に課せられた社会的使命を果たすことを目的とした一大組織革命といえます。欧米の国立大学、私立大学は通常は法人格を有しており、我が国の大学のあり方もその意味で世界標準レベルとなったといえるでしょう。

法人化は私どもにとって未知との遭遇であり、大学をいかに運営していくかは、暗中模索の感がありますが、まさにその力量を問われていると認識いたしております。国から支給される運営費交付金も裁量的経費と位置づけられ、毎年減額ということになります。外部資金の獲得など経営的視点が極めて重要になります。統合の関係もあり、本学の法人化作業は遅れていますが、教職員一体となって、この四月には何とか無事に着地したいものと考えております。

私は新大学で教育担当の副学長の任を負うことになりました。カリキュラム、入学者選抜、留学生・学生支援そして就職支援などの領域が含まれます。いわば教育という大学の役割の本質に関する分野であり、大変な重責を感じております。

また、少子化が進み十八歳人口の減少し続けているという現実があります。これからの大学の取り組むべき戦略のひとつに、いかにして学生を確保するか、そのための戦略的広報活動をいかに進めていくか、といったことが挙げられると思います。戦略的広報活動の重要な要素はコンテンツであり、大学におけるコンテンツは教育そのものであります。教育の質をいかに高めていくかが、大学の未来を左右する重要事項となるでしょう。

そのためには教育システムの改革と教員の教育力を高めるための自助努力が望まれています。教員ひとりひとりが、平成十二年に報告されましたいわゆる「広中レポート」にあるように「教員中心の大学」から「学生中心の大学」への視点の転換を自覚し、学生

の立場に立つた大学づくりを目指していかなければいけないと考えております。

年頭に当たり、抱負の一端を述べさせて頂きました。同窓会の先生方のご健康とご多幸を祈念申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

讃樹會員の皆様への迎春の辞

医学部長 岡部 昭 延



讃樹會の会員の皆様は新年のご祝詞を申し上げます。会員諸氏におかれましては、多方面でご活躍の由、恭悦に存じます。ご存じのとおり、皆様の母校は、新香川大学の医学部として再スタートしたばかりです。

創設して二十五年が経ち、色々な荒波を越えつつ、医学・看護学の教育研究機関として、また附属病院は高品質の医療を提供する中核的医療機関として発展し、多くの優秀な人材を世に輩出することができました。ひとえに多くの諸先生方、職員の方々の努力と、同窓生の方々のご支援の賜物と感謝しております。医学部は統合による大きな機構変化に加え、息つく間もなく独法化という厳しい競争社会に突入するという未曾有の試練の時を迎えております。

開学当時から在籍する少数の教官の一人として、来し方行く末に想いを寄せながら筆を執っております。開講後しばらくの間は、全てが新鮮で、当時の学生と膝を交えて、自由に語りあったことが、昨日のことのように懐かしく憶はれます。その後、徐々に大学の

自己点検評価、外部評価、特に研究面での評価が問われる時代に移行し、最終的には、独立法人化、すなわち大学の個性ならびに総合力の評価に基づく予算措置という競争原理導入の時に至りました。これまでの経緯、現状、未来像について医学部長としての見識を自問するとき、医学部の建学の理念を想いし、新大学の理念を見据えて、大学の進むべき方向を大所高所から考える姿勢を貫かねばならないと自答しています。

医学部が教育・研究・医療・社会貢献・国際貢献・国際通用性・学部運営などで、高い評価を受けるために、高い中期目標と中期計画の策定とその実行が求められています。そのためには、全構成員の間の信頼関係、団結力、運営の機動力を高めるというチームプレイが必要です。大学運営の透明性と説明責任は時代の要請でもあります。これらを踏まえた上で、全員参加型の効率的運営に向けた改革に努めたいと思っております。ミクロの世界で生きてきた人間が、学部長としてマクロの視点に立つことの困難性を日々感じておりますが、卒業記念に植樹された木々や「背私向公」、「鴻鵠之志」が刻まれた石碑の目にする時、卒業生の方々の願いが伝わってまいります。これらを座右の銘とし、愚直なるが故に、他の多くの方々の叡智と助言をいただきながら、皆様のご期待に沿うように努めたいと思っております。

厳しい状況下で教育・研究環境を整備しつつ、学部運営、病院経営を向上し、発展していくためには、皆様方の今後益々のご協力とご支援が必要です。また、師弟関係なるものは、いつ、いかなる時も変わりなく、私どもに対し、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚です。最後に、母校の名誉にかけて活躍すべく、益々研鑽されることを皆様方に希望致し、皆様のご健勝を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

統合そして独法化を

ひかえた病院の現状

医学部附属病院長 尾省吾



香川医科大学卒業の同窓の皆様方には、ご健勝にて各方面でご活躍のことと存じます。

平成十五年十月一日に香川大学との統合による人事異動により、香川大学医学部附属病院長に就任いたしました。医療を取り巻く環境ならびに法人化に向けて誠に厳しい中、同窓の皆様方のご支援を宜しくお願いいたします。

まず、統合は他学部との研究を推進するよい機会と思えます。既に農学部とは希少糖の医薬品への応用の共同研究が進んでおり、今後教育学部と協力して、思春期の心の医療や工学部・農学部との共同研究によって新しい医療材料・機器の開発などにも取り組む予定です。平成十六年四月より、卒業二年間の臨床研修が必修化され、ストレートの入局制度は無くなりました。厚労省の指定する必修研修科目と研修医の希望する研修コースにより二年間の教育がなされますが、本病院のみならず研修協力病院・施設の負担が増える事が予想されます。特に、必修科目に指定された診療科の先生方に現在以上の負担増の可能性があり、病院としての様なサポートが出来るか検討しております。研修医のための居住スペース・研修室などは確保しました。次に研究面ですが、特定機能病院

として高度先進医療を実践する義務があります。残念ながら、本院は指定ゼロで、各診療科における先端医療をさらに発展して早急に申請をしていただくようお願いしております。診療面では、本院の特色を出しつつ地域の皆様から信頼され、また満足いただける病院を目指します。本院の売りとして、PET・救命救急センター・周産母子センター・医療情報部ならびに各診療科が得意としている先進医療があり、今後は実績に従って教育・研究に配慮しながら人員ならびに経費の配分が必要と考えております。既に存じのように平成十六年四月から独立行政法人となり、病院経営が医学部のみならず香川大学全体にも影響を及ぼす事態となります。病院収入の面では、包括評価の導入・診療報酬の一律減額などのため保険診療にこれ以上頼れない状況です。例えば病室の個室増、総合周産母子センターへの拡充、PETを核とした健康診断（自由診療）による収入増などの方策が必要です。今までは病院収入が国庫に入っていました。来年からは大学法人香川大学の収入となり、増収益がでますと医療機器の整備、病棟の増築・新築などの積立金として確保できる方向で進んでいるようです。一方、従来の人事院規則から労働基準法に変わり、診療の現場で最も重要な患者様へのサービスにそぐわない法律が適応されます。現在、人員ならびに経費の絶対的な制約の中で、適正な職員の配置、病院当直などをどのようにするか困難な作業を行っています。いずれにしても就業規則の大幅な変更により、従来の病院当直体制ならびに兼業のあり方も変わらざるを得ません。最後に、臓器別・機能別の診療科の再編についてですが、医学部全体の講座再編の話も出ており、こうなると相当な時間を要すると思われ。いずれにしても、診療科を患者様の分かりやすい臓器別・機能別とし、若くも診療実績があれば診療科をお任せするシステムの導入が必

要でしょう。このような激動の時代において、同窓会の皆様の病院
に対するご理解とご支援を切にお願いいたします。

末筆になりましたが、同窓の皆様のご健勝とますますのご発展
を祈念いたします。



香川大学 学部 長 挨拶

はじめまして 教育学部です！

教育学部長 加野 芳 正



讃樹會のみなさん、はじめまして。教育学部長をしております加野です。平成十五年十月の統合により新しい香川大学が誕生しました。六学部のなかの一つを構成している教育学部の歴史や現状について、簡単に紹介させていただきます。

教育学部の前身は明治七年の成章師範学校に遡ります。香川大学の中ではもっとも古参ですね。教員養成学部は、近代学校制度の成立とともに設置されていますので、どこも歴史が古いのです。岡山大学や熊本大学などの前身となる県立医学学校が設置されたのが明治一三年ですので、ほぼ同じ頃に設置されたことになりました。もっとも、百周年などの学部の節目は、明治二十年十月に創立された香川県尋常師範学校から数えているようです。

昭和二四年の新制大学発足にあたっては、香川師範学校と香川青年師範学校を統合し、学芸学部としてスタートしました(昭和四一年に教育学部と名称変更)。一方の師範学校には「松」が、他方の師範学校には「楠」が、それぞれ植えられていたので、同窓会は「松楠会(しょうなんかい)」と命名されました。今日までに送り出した卒業生は、二万人を超えています。教育学部ですので、当然

就職先は「学校教員」となります。いつだったか同窓会長さんが、「もっと学部のために援助したいのだけど、教員ではいくら頑張っても倉(クラ)が建たない」と申されておりました。お金にはあまり縁のない学部なので、法人化された後の財政運営をどうするか、ちょっと頭が痛い問題です。できたら援助交際とまらない範囲で、医学部と仲良くしたいと・・・。

大学設置基準が大綱化されるまで、教育学部は「教員養成」と「全学の一般教育」を担当してきました。余談になりますが、旧制高等学校を前身に持った国立大学には教養部が設置され、そうでない大学は教育学部が一般教育を担当するケースが少なくありませんでした。その旧制高校は、親藩・譜代が治めていた地域にはあまり設置されていません。高松藩はご存知のように「松平」です。旧制高校というフィルターを通して、旧徳川方の人材が帝国大学に進み、エリート層に入ってくるのを嫌がったのですね。

一般教育部を抱えて、多いときには教官数も一五五名を超え、旧香川大学の半数近くを占めていました。その後、一般教育部の廃止に伴って、一般教育(教養教育)は全学出動体制で行われるようになり、学部規模も縮小してしまいました。一般教育部教官の各学部への再配置に定員削減なども加わり、四月からは教員数も一〇名を割ってしまいました。

教育学部は、少子化の影響で教員への就職が必ずしも順調ではなく、また、学部規模が小さくなったので近隣大学との、県境を越えた再編・統合が求められています。こうしたなかで、我が教育学部は教員養成を担当する四国の拠点学部を目指し、体制を整備しつつあるところです。「教育県かがわ」は全国的にも有名ですので、そこに教員養成を担当する学部がないというのでは恥ずかしいことになってしまいます。

教育学部と医学部は似たところが少なくありません。地域社会と密着しているところ、大きな附属施設（病院と学校）をもっているところ、基礎部門と臨床部門をもっているところ、等です。せっかく統合してできた新しい香川大学ですので、そのメリットを最大限に活用していきたいと思います。両学部が教育や研究の面で協力しあうことが、お互いの利益になるだけでなく、香川大学の発展にもつながります。

以上、簡単に教育学部の紹介をさせていただきました。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

文理融合の精神で

工学部長 石川 浩



讃樹會のみなさま、新年明けましておめでとございます。昨年十月、統合により新たに生まれた「香川大学」工学部長の石川です。何卒よろしくお願い申し上げます。

ご承知のように、工学部は平成九年十月に創設された満六歳の若い学部で、その創設理念は「文理融合」です。専門分野の知識や技術を修得するのみならず、経営能力、ベンチャーマインド、人間理解、倫理観、国際感覚、歴史的視点などの文系的センスをも身に付け、自己を的確に表現し、国内外の舞台で縦横に活躍する新世紀の工学プロフェッショナルの養成を目指しています。

面白いことに、文理融合の考え方は郷土の偉人・平賀源内の生き

様にも見て取ることができません。源内は、「号を鳩溪、風来山人、天竺浪人。作家として福内鬼外、俳諧では李山と称す。本草家、発明家、文芸家、芸術家、大山師（鋤山家）」として全国を股に大活躍した異能の人、非常の人」と言われています。鎖国の江戸時代に、文理両面のかくも多方面にわたって超人的な活躍をするためには、人一倍の精神力、並外れた集中力、強い信念と自信が必要だったことでしょう。友人の杉田玄白が刻んだという墓碑銘ああ非常の人、非常のことを好み 行い是非常 なんぞ非常の死なる」という言葉にもその非凡振りが読み取れます。既成の価値観や制度に対抗して新しい理念で改革・創造を続けるためには、こちらがよかれと思つて事を進めても、思いも寄らない結果が帰ってくることも多々あります。寝食を忘れて頑張つても、うまく行つて当たり前の話で、「一人ぐらいはこの世に馬鹿が…」と浪花節調で滅私奉公することが要請されます。源内はいみじくも言っています。「勉強というのは、人と同じようにやつとつたら、いつまでも人と同じだ。人よりずば抜けるには、人が寝ている時間を利用しなければいかん」と。

私には、源内の姿が西洋の偉人レオナルド・ダ・ビンチに重なつて映ります。中世から近代へと時代の変転を告げるルネサンス期の夏、大望を抱いてヴェインチ村からフィレンツェに向かった若きレオナルドは、ペロッキオ親方の工房で腕を磨き、やがて土木、建築、機械、解剖学から、絵画、彫刻、音楽に至るまで、当時のおよそすべての技術や文化に関心をもち、それらを創造的・革新的に発展させました。何事にも飽くなき興味を示し、果敢なチャレンジ精神をもって創造活動を続けた両雄の姿に、深い感銘を覚えます。このような人達こそ、わが国のみならず世界が求めている人材です。

伝統ある讃樹會のみなさまには、日々の何気ない鍛錬により、いかなる逆境にも負けない強い精神力をすでに身に付けておいでと思います。どうか幅広い思考により、これまで以上に同時代をぐいぐいと引張って行って下さい。統合により生まれた新たな医学部と工学部は、医工融合的な学問分野の新展開を求めて互いに頑張って参ります。みなさまのますますのご健闘を心よりお祈り申し上げます。

新しい香川大学への期待

農学部長 一井 眞比古



同窓会誌に挨拶させていただく機会を与えられたのは新しい香川大学の誕生によるものであり、大きな喜びと感じております。つい最近までは、農学部と医学部は地理的に一番近い学部でありながら他大学であり、同じ三木町内にありながら大学名が異なっていました。さらに、農学部と医学部は生命体を主な対象としているなどの大きな共通点を持っているにも拘わらず、その所属機関は違っていました。このようなことは、一般の人から見ればたいへん不自然に映っていたことでしょう。一方、二十数年前の話になりますが、医学部の設置形態が当時の大学人の希望とは異なってしまったのも事実です。ひとつの大学の中に両学部が存在することはごく自然でありませぬ。

農学は、「人間とのかかわり」や「人間と自然との共生」を常に

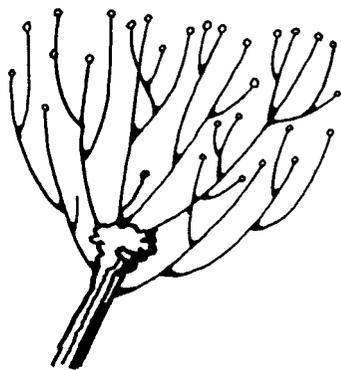
意識して発展してきており、人類の重要課題である食料問題と環境問題に積極的に取り組み、教育研究を通じて世界を含む地域社会の発展に貢献しようとしています。現在の農学を農林水産業のみに関わる分野として理解している人たちが残念ながら多くいます。われわれは農林水産業と常に関わりを持っていきますが、人間の健康や安全並びに地球温暖化や砂漠化、土壌・大気・海洋汚染などの地球環境にも大きく関わっており、農学は大きな広がりを持つ分野に発展しています。われわれはバイオテクノロジー、遺伝子工学、環境科学、情報科学を駆使して教育研究を行っています。

農学部は今年開学百周年を迎えています。開学以来、一〇〇〇人以上の有為な人材を地域はもとより世界に送り出し、地域の発展や農学の進歩に貢献する情報を発信し続けてきました。教育研究の高度化に伴って一九六八年からは大学院修士課程が、一九八五年からは大学院博士課程がそれぞれ始まっています。本学部在籍して博士の学位を取得した日本人及び外国人はすでに二二〇人を超え、日本はもとより世界の大学や研究機関などで社会の発展に大きく貢献しています。また、一〇数力国からの五〇人以上の外国人留学生（ほとんどが大学院生）がいつも在籍しており、国際色豊かな教育研究環境が整っています。昨年度からは、すべての講義を英語で行う外国人留学生のための大学院特別コースも始まっており、日本人学生の国際化教育への貢献も期待されています。

農学部と医学部は、新しい香川大学が生まれる以前から教育研究面での深い交流を行っていました。両学部の教育研究の対象は生命体であり、その基本設計を決めている遺伝子に関する教育研究をより発展させるための共同利用施設として一九九九年に遺伝子実験施設が設置され、同施設を拠点にした教育研究の交流が活

発に行われています。また、農学部で生まれた技術をもとにした「希少糖研究」では、両学部の多くの教官が早くから研究に参画し、両学部教官の協力と熱意が国家プロジェクトのひとつにまで育てあげ、希少糖研究の世界の拠点である香川大学希少糖研究センターに創設に結びついています。

新しい香川大学の誕生によって、近くて遠かった両学部が近くてより密接に連携した学部となり、両学部の教育研究がますます発展し、香川大学全体の教育研究水準の向上に貢献することを願っています。



退任にあたって

讃樹會への感謝と希い

香川大学医学部名誉教授 高 岩 堯



讃樹會員のご理解とご協力を得て、無事に任期満了できたことを感謝いたします。

大学と病院の創設に参加した者の一人として、僅か二十年後に統合、香川医大という名称の幕引きに係わることになり、些かの感慨を覚えます。同窓会員の皆様もあるいは釈然としない向きもあるかと思いますが、国全体の構造改革という大きな時流には逆らえず、已むを得ない帰結でしょう。

今後は大学の統合、法人化という形で国や社会が求めているものの本質を察知し、組織、体制を整備し直すとともに、各個人は種々の意味であらゆる状況に対応できる実力を養い、時流に翻弄されないしなやかさとしたたかさを身につける必要があります。

病院長在任中の出来事は、開院二十周年記念誌、病院ニュース(二三五号)などに記した通りです。種々の事業の計画、実現にあたって改めて痛感したのは、それに関係する人達全ての理解と協力が無ければ何事も順調には進まないという極めて平凡な感想でした。また事業のあるものは私の任期中に浮上し完結したのではなく、早くは病院創設期から先見性ある構想・企画のもとに、各方

面との折衝など長年の準備の末に漸く実現したもので、継続性と努力の積重ねの大切さを認識すると共に、先人のご苦勞に感謝した次第です。

今や讃樹會員は一八〇〇人を超えました。附属病院では多くの會員が診療面の中核戦力としてだけでなく、病院運営でも発言力を持って積極的に活動しておられます。病院の将来は同窓會員の肩にかかっていると云って過言ではなく、大学以外でも多くの分野で活躍しておられることは誠に嬉しく、今後も讃樹會員の自信と誇りを以って日本の医療・医学を支えて頂きたいと思えます。

會員数は今後も増加の一途を辿るわけで、会は無限の可能性を持つといえますが、総則にあるように、「會員相互の親睦とその向上を図ると共に、母校と学術の発展に尽くすこと」が守られる限り、會員や母校にとつて大変頼もしい存在です。数は力ですが、例えば今回の学長選挙でその萌芽がみられたように、何らかの政治的意図を以って操作するようなことがあれば禍根を残すことになりましょう。

会と會員は本来の趣旨に沿って、医学部や附属病院の活力源として一層発展されることを期待するものです。



退官にあたって

香川医科大学での在任期間を振り返って

香川大学医学部名誉教授・香川県立医療短期大学 高原 二郎



香川医科大学と香川大学の統合により、二〇年六ヶ月間勤務させて頂きました香川医科大学をこの九月三〇日付けで退職いたしました。この間皆様方には大変お世話になりました。この場を借りて心より御礼を

申し上げます。同窓会より退官の挨拶を書く事を依頼された機会に、少しこれまでの事を振り返ってみたいと思います。私は昭和五八年四月に第一内科の助教授として赴任し、大学の創設時代を忙しく過ごしました。その後、当事の主任教授の入野昭三先生が、学長に成られた後を引き継ぎ、平成三年八月に第一内科の教授に就任しました。第一内科のモットーは「愛と和と創造」であり、われわれスタッフはそれを実現するため、教育・臨床・研究に對し力いっぱい頑張ってきました。第一内科の厳しい研修は皆さんも良く知っておられると思いますが、最初一二年の研修期間内に内科医としての考え方、基本的技術を十分に教育し、どこに出しても恥ずかしくない内科医を育成することが目的でしたし、入局してきた多くの研修医は、その期待に応えてくれたと思っています。第一内科は研究も頑張ってきました。スタッフ及び大学院生、研究生は教育、臨床の間をぬって、研究をしており、インパクトファクターの高い国際的ジャーナルに次々と論文を発表しており、最近では古くからある医科系大学の講座に匹敵する業績を挙げる

までになって来ております。これだけの研究業績を挙げられるようになったのも、入局してきた人々が臨床にも研究にも一生懸命取り組んで頂いた賜物と思っています。

さて、平成十二年四月、田邊正忠先生が学長になられ、私は教育・研究・厚生補導担当の副学長に就任しました。その頃は、医学教育改革の波が押し寄せて来ており、チュートリアル、コア・カリキュラム、臓器別統合講義、OSCE (objective structural clinical examination)、CBT (computer based test) などの導入の必要性が求められており、多くの先生方のご協力により、曲がりなりにも、それらの導入が行われました。更に、大学評価が行われるようになり、現在までに「教育面における社会貢献」、「教養教育」、「研究面における社会貢献」、「国際貢献」の評価が行われました。その中で、「教養教育」については、評価者が医科大学の実情を理解して頂けなかった事もあり、平均値でしたが、「教育面での社会貢献」では、全国のトップ八に入りましたし、その他も評価は高く、ほぼ満足が行くものでした。ただ、評価のための評価書の作成、資料集めなどには大変な労力が必要でした。関係された教員はもとより、関係の事務官にもそのご努力に感謝します。教育関係では、昨年は研究面でのCOE (Center Of Excellence) が行われましたが、残念ながら採用されませんでした。しかし、本年度は教育面でのCOEといわれたCOL (Center Of Learning) が募集され、応募した教育改善の取り組みが採用されました。又、医師国家試験はここ二三年、全国平均値を三、四%上回る成績でしたが、今回の第九六回国家試験では、全国八〇医科系大学で、実質十一位(十三位)、国立大学では八位、新設医科大学二校では一位になりました。このように、本学は開講二十年を経て教育面においては、従来からあった医科系大学と肩を並べたということが出来たと思います。



京都大学医学研究科形成外科学 教授 鈴木 木茂彦

平成十五年一月一日付けで京都大学形成外科学教室に戻った後も、香川医科大学教授職を併任しておりましたが、平成十五年八月末をもって職を離れました。四年弱の短い職期間ではありましたが、私にとりまして良きスタッフに恵まれた幸せな日々でした。十月からの香川大学医学部としての再出発を見届けられなかったのが心残りです。

退官のあいさつ

讃岐うどんのパワーで世界に発信を

今後は研究面においても、他の大学に負けないように、頑張っていく必要がありますが、そのためには母校に一人でも多くの人が残るように、色々な面から考えていく必要があります。これには、同窓会の全面的な協力が必要である事は言うまでもありません。さて、平成十五年十月一日、香川大学との統合が行われました。この統合については色々意見があるところで、統合する事が良かったかどうかについては、すぐには結論が出せないと思います。現在の時点では、あまりメリットは無いように思いますが、長い目で見ると、香川大学の医学部になることによって、戦後多くの医科大学が統合し、総合大学になって発展してきたように、発展することが期待できると思っております。

大学と同窓会は車の両輪です。この事を忘れずに、お互いが力を合わせて益々発展される事を心より願っております。

す。

突然の私の異動に際し、医局員、大学や関連病院をはじめとする講樹会員の皆様にご迷惑をおかけしたことは非常に心苦しく思っています。京都の家を引き払い香川に住居を構えていた私にとりまして、香川の決断でした。私が香川を離れるのにあたり、研究継続等のために京大に移ることになった医局の先生方には非常に感謝していますが、香川大および関連病院に残って形成外科医局を支え続けていただいている先生方にはそれ以上に感謝いたします。

退官する私にとりまして最もうれしかったことは、平成十五年春に六名もの医大卒業生が形成外科を希望してくれたことです。そのうち三名は香川大に入局され、一名は京大に、もう一名は徳島大学に入局されました。

歴史の古い大学と比べ、後から創立された香川大医学部は設備面、教官数、予算面いずれも不利な状況におかれています。国公立トップ三〇大学を残すという遠山プランは、スタート地点の異なる走者を競走させるようなもので不公平であり、事実上消滅したのも当然です。しかし、代わりに生まれた二十一世紀COEプログラムも結局は、業績の蓄積のある古い大学が有利であることは否めません。ただ、歴史が浅く小規模な大学でも、讃岐うどんが全国に進出したように、特色を出して全力を尽くせば必ず途は開かれるものと考えています。これは徳田教授をはじめとする関係者の尽力で、希少糖研究が知的クラスターに採用され、世界へ向けての発信をめざしていることでも証明されています。私は形成外科学の分野でも、香川から全国に向けて発信するのが夢でした。あとを継いでくださいました井川浩晴教授が、私の夢を引き継いでいただければ幸いです。

京大形成外科同門会には現在讃樹會員が十二名おられ、私にとりまして心強い支えになっており、今後も香川大形成外科とは親密な交流を続けさせていただきたいと願っています。また京大および関連病院には、形成外科以外の医局にも数多くの讃樹會員がおられます。私も香川大OBの一員として、皆様と交流していきたいと思っています。

最後になりましたが、香川大の益々の発展を祈願するとともに、香川大医学部および讃樹會員の諸先生方には、今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます。



教授就任にあたって

外科学講座形成外科学 教授 井川浩晴



香川大学医学部同窓会の皆様、初めまして。平成十五年九月一日付けをもち、外科学講座形成外科学を担当させて頂くことになりました井川浩晴と申します。

私は水戸一高を卒業し、北海道大学医学部に学び、卒業後はそのまま母校の形成外科学講座に入局致しました。初期研修二年を終えた段階で母校の大学院に進学致しました。私は北大形成外科始まって以来最初の大学院生であり、「形成外科医たる者に必要なものは外科医としての腕であり、学問などは不要だ！」と云う当時の気風に、図らずも真つ向から逆らっていたことになりました。初代教授大浦武彦先生の抱持ちを一年弱務めながら、大浦先生にお願ひし希望する国内留学先を探して頂き、広島大学医学部解剖学第一講座の安田峯生教授の門を叩き、頭蓋顔面の実験奇形学的研究で北大から学位を取得致しました。後期研修を終え、希望する外科研修を済ませた後、北大形成外科に戻り、口唇口蓋裂などの先天異常の治療における チーム医療、ならびに、頭頸部などの癌切除後の同時再建における チーム医療 を専門とし、頭蓋顔面領域の骨切り術と、微小血管吻合を用いた遊離複合組織移植術の二足の草鞋を欲張って履いて参りました。同期

では最終組で留学する機会を得、ニューヨーク大学医学部形成外科に幸いにも文部省長期在外研究員として出向し、頭蓋顔面領域に導入されて日の浅い骨延長法を、その第一人者である McCarty 教授の下で学んで参りました。研究面では、実験的胎児外科手術、胎児における無癒痕性創傷治療の機序解明、Revascularization による新しい遊離複合組織移植術の開発、頭蓋顔面における骨延長法の開発、ケロイド発生の機序解明、ホメオボックス遺伝子と皮膚悪性腫瘍の浸潤・転移の関連解明、先天異常の責任遺伝子の解明、再生医療を応用した培養皮膚による難治性潰瘍の治療等々、興味の赴くままに自由にやらせて頂きました。

北海道にいる時は、今にして思えば、北大形成外科と云うブランドで殿様商売を致しておりました。ここは数多の強国が周りに犇き合い、私自身が行商に出ねば、期せずして私に付き従うことになった彼ら彼女らを食わせることはできないと、思い知らされる日が続いております。しかも、私の師匠である二代目教授杉原平樹先生は、北大から下を連れてゆくことを許しませんでした。「一人で行って、人を育てよ」ときつく申し渡されました。同期の大半が今回の人事に驚いたように、学生時代から私は決まっていた事柄は決して下にはやり返さなかつたと云う一点に尽きます。上からは嫌がられました。下からは自分で云うのもおこがましいのですが、よく慕われました。今は人もおらず、関連病院もない、ないない尽くしですが、残ってくれた卒業生達は志の高いつわものばかりです。彼ら彼女らを育て上げ、教室の核となし、しかる後に高松から世に打って出ます。下から続く者が一流の舞台で主役を張れるように、舞台裏を固め直します。振り出しに戻ったここで腹を括り、一所懸命に励みたいと思っております。ただ、これまで同様

剣は下段にこそ構え、なすべき事を淡々とこなしてゆきたいとも思っております。

私は香川医科大学最後の教授であり、たったひと月その地位にあっただけですが、香川大学医学部に改組になった今、その稀有な役回りが頭を離れません。同窓会の先生方におかれましては、どうぞ私の思いをご理解頂き、ご指導とご支援を是非賜りますように、心よりお願い申し上げます。



✦単科大学から総合大学へ✦

平成十五年十月一日付をもって、香川医科大学は香川大学と統合し、名称を香川大学医学部として新しいスタートを切りました。十月三日には統合の記念式典が香川県民ホールで開催され、学内外関係者約五〇〇名の出席のもと、木村学長の式辞、来賓の祝辞に引き続き同会場で祝賀会が厳粛かつ和やかに開かれました。

香川大学はこれまでの教育学部、法学部、経済学部、農学部、工学部に医学部が加わることで六学部体制となりました。今年四月の法人化を眼前にして、新体制の細微にわたる整備が急がれています。

これを機に当同窓会は、香川大学医学部医学科同窓会讃樹會の名称のもとに、その設立の目的を再認識し今後の更なる発展に向けて、新たな一歩を踏み出しました。

参考

平成十五年十月一日に統合した国立大学は、東京商船大、東京水産大(東京海洋大)、福井大、福井医大(福井大)、神戸大、神戸商船大(神戸大)、島根大、島根医大(島根大)、高知大、高知医大(高知大)、九州大、九州芸術工科大(九州大)、佐賀大、佐賀医大(佐賀大)、大分大、大分医大(大分大)、宮崎大、宮崎医大(宮崎大)。



生化学 上田夏生教授



平成十五年十一月十三日午後一時～二時

於・管理棟三階応接室

出席者・上田教授、濱本名誉会長

濱本

本日はお忙しいところ、ご出席頂き有難うございます。よろしく願います。さて、上田先生は平成十三年一月に教授に就任され今年で三年目となりましたが、当大学に赴任しての印象はいかがでしょう？

上田 設備も整っていて、学生は真面目で、とても良い大学だと思います。

濱本

教育および研究についてどのようにお考えでしょうか？

上田

教育は教官にとっても大学全体にとっても非常に重要です。大学の行く末に繋がるのが教育で、教育がきちんとしていないと大学はいらぬとも言えます。ただ、大きな大学の医学部と比べると学部学生の数はだいたい同じくらいなの

に、本学は教員が少なく、一人の教官の duty が多くなる傾向があります。大きな大学では、教育にはノータッチで研究のみに専念している教官がいますが、ここではそういう驚沢な余裕というものは無いようです。また、生化学講座がひとつしかない大学は医学部では珍しいと思います。

地方大学では、地域への貢献という意味でも教育はたいへん大切です。地方大学がその地方の大学である存在理由の第一は「教育」だと思います。また、統合、廃止の話が出た時に守ってくれるのが地元です。そのためにも地元に貢献しているということをアピールする必要があります。それから、香川大学との統合の影響が顕著に現れつつあるこの時期に、カリキュラムをきちんとしたものにする必要があると思います。私が全学教務委員をしていて感じることは、医学部は香川大学六学部のうちのひとつでしかないということですが、医学部の希望を言っても、残りの五学部が反対すれば実現できないという現実があります。今、カリキュラムをしっかり構築しておかないと、後からは変えにくいし、統合のいきさつも分かって今ならまだ意見が通りやすいでしょう。

濱本

生化学という分野を通して学生に接する時、今の学生気質をどう思っているのでしょうか。生化学には、ややアレルギー的な学生も多いと思います。

上田

他の科目は生物学が基礎ですが、生化学は化学を基礎としています。生化学だけ他の教科と違った成績をとる学生がまれにいますが、化学や、化学式が苦手だとなじみにくいかもしれませんね。できるだけ解りやすい授業を心がけていますが、市川先生は少しきびしいところもあつたかもし

濱本 濱本 けれども、教育に大変熱心な先生でいらっしやいます。大学、卒業生に望むものはなんでしょか。

上田 濱本 なんていっても学生は勉強することだと思います。国試に受かるためだけの勉強ではなく、志を高く持つて欲しいものです。母校に残って、助手、講師、助教授、教授などと考えず、全国規模や国際レベルを見据えた活動ができるようになってください。本人にやる気さえあれば、いろいろなことできます。そういうシステム、世界で活躍できる条件が今の日本には整ってきていますから。試験に受かるのが人生の目的であるようではいけません。本学の学生には、潜在的な能力があると思います。ただ、教官数が限られていて、歴史が浅いので仕方のない点もありますが、学部にいる間に刺激を受ける機会が少ないのは少し残念に思います。歴史のある大学では、たとえば講演会ひとつとっても、質的にも高く回数もたくさんできます。大学なり何かが学生のモチベーションを高めるような機会をどんどん作っていくことが必要でしょう。

濱本 全体にこじんまり志向かもしれませんが。真面目な学生が多いのだが、独創性は足りないかも。

上田 ただ「国試に受かる」では、ゴールが低いという気がします。講義をしているだけでは分かりづらいですが、個人的に話すとき、ずいぶん素晴らしい才能ややる気を持った学生が多いと思います。その能力を伸ばすように大学も考えなければいけません。

濱本 香川医科大学は開学後二十年経過した大学としてどうでしょう？

上田 国立大学医学部の最後にできた大学なので、しんどい立場

はあると思います。何もなかった時代にできた大学の二十年と、全国的にできあがった後でできた大学の二十年とは違うと思います。もつと時間が必要で、二十年では短いと思います。なんていっても、一期生がまだ四十歳過ぎで若いですから、卒業生の教授数が少ないのも当然のことだと思います。

濱本 この大学から教授が出ることを希望していらっしやいますか？

上田 是非、この卒業生が教授になることを望みます。大学にいる卒業生にたいへんいい影響があると思います。ただし、条件があつて、真にふさわしい人になって頂きたいと思えます。「あいつでもなれるなら、俺も」となつてはどんどんレベルダウンしてしまいますから。教授にふさわしい力をつけた人がなるべくしてなつて欲しいと思います。

濱本 今日は大変ためになるお話をいただき、有難うございました。

コラム：セブントラゴンの「教授の横顔」

生化学の医学分野での大切さを力説され、研究に燃えられた一念には感動致しました。本学卒業生の能力を高く評価され、世界に飛び立てる人材を育てようとする教育理念は我々にとって頼もしい限りです。今後、もつともつと教育者、研究者として、本学で発言され、良い大学を形成される力になって頂きたいし、その器をお持ちだと感じました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）

泌尿器科 寛 善行教授



平成十五年十二月五日午後一時～二時
於・管理棟三階応接室
出席者・寛教授、濱本名誉会長

寛 本日はお忙しいところ、ご出席頂き有難うございます。早速ですが、寛先生は、こちらにご就任されたのが平成十三年の四月ですが、京大からこられての香川大学医学部の印象はいかがでしょう？

寛 そうですね。泌尿器科について言いますと、非常に若い優秀な人材が教室に居てくれたので比較的スムーズに溶け込む事が出来ました。逆に言うと、殆どが経験が浅い若い先生ばかりで外科系のパートで言うと経験が足りないという事は、ある意味では何にも染まっていなくて幸運だったのではないかと思えます。

濱本 それでは、大学そのものについての印象はいかがでしょう？

寛 それは未だによくわかっていないかもしれませんが。歴史が浅い分、比較的、新しい何かアイデアが出るとそちらに変化していく力がある。非常に保守的な面と共存しているように感じます。

濱本 三本柱である臨床・研究・教育それぞれのお考えをお聞かせ下さい。

寛 欲張りかもしれませんが、個人的にはどれも大好きなんで

すね。臨床はサービスタと常々教室でも言っています。何かしようとする論理が要る。学生の教育は好きで最初の二年間のカリキュラムはほとんど自分がやりましたね。研究はいかがですか？

濱本 そうですね。この二年半は自分のやりたい事がやりたいだけ出来て人生の中でもハッピーな時間だったと思います。そうですか。私達は初めて尽くしの学生だったのですが、今の学生をご覧になってどんな印象を持たれますか？

寛 私は、京大、関西医大とこの学生を教えてきましたが、香川大学の学生はかなり良い子が多いですね。年によって波がありますが、臨床家になるための元々の素質を持った学生が多いですね。

濱本 スーパーローテートについてはどのように考えておられますか？

寛 実際には今年からやっていて、良いシステムだと思いますが、来年からの本格的なスタートにあたっては医局に所属しないので医局が経済的なサポートが出来ないのではないかと思います。

濱本 泌尿器科を選ばれたのは・・・？

寛 実は二代目なんです。泌尿器科と言うと未だに性病科と言われている事もあって一般外科が泌尿器科が迷ったのですが、結局父の友達に勧誘されたことや京大の先代の泌尿器科の教授の吉田先生（現奈良医科大学学長）を初めとしてより惹かれる先生が泌尿器科だったということですね。

濱本 毎年三割ぐらいの卒業生が残る訳ですが、卒業生はいかがでしょう？

算

とにかく明るいですね。臨床面ではグンと力を付けたらトップレベルで臨床も出来ると思いますね。しかし、学会発表や論文、最後は臨床にも回ってくるんですが最後の詰めがちよっと。プラス を考える力がちよっと足りない。起承転結の転の展開をもう一捻りすることが必要です。それは母校に残る者の甘えもあるのでしょうか？

算

そうですね。だから、私はクロウズの世界ではなく、他所から入局された先生と混じって働いてもらいたいと思いますね。

濱本

香川大学には卒業生にまだ一人も教授が居ないのです。卒業生だから教授になれるのではなく、教授にふさわしいだけの實力を持っていて、他所から来る候補者と同格くらいであれば卒業生になってもらいたいと思うのですが。教授にふさわしい人柄や実績があり、必死の気持ちを持った人を候補者として作りたいですね。

算

年齢、タレント、人間としてのプラス があって、考え方もしっかりした人で教授の基準を満たしてくれるような人を求めていきたいですね。

濱本

そうですね。ところで香川医科大学も開学二十年を超えましたが、二十年経った大学としての印象はいかがでしょうか？

算

泌尿器科で言うところと十年経つとだいたい一通りのことが出来るようになって、そこから十年でキャリアを積んで学術的なもので一人立ちする。さらにもう十年で教授が二三人出てくる。初代の教授の先生方が育成にまわるエネルギーを創設にとられてやや遅れているが、今後は巻き返すだろうと思います。市民講座や学会での発表などいろんなもの

に出て経験を積んでいく。どうやったら相手に判ってもらえるか、相手があつてのことなので相手に合わせないといけない。それはある程度教えてやらないといけない。

濱本

相手に判らないと意味がないですよ。患者さんが判り易いこととレベルが低いことは違うんですよ。

濱本

大学として今、求められている科は何でしょうか？

算

そうですね、外科系で言えば消化器外科の教授がいない。特に地域と密接した地方の大学において消化器外科の大将がいないうことは外に対して弱いのではないのでしょうか。

濱本

結局みんな同じ船に乗っている自分の科だけでなく全体のバランスのとれた方策を考えないといけないですね。そうですね。本日は貴重なご意見を頂戴致しまして、有難うございました。

コラム：セントドコロンの「教授の横顔」

教育、臨床、研究すべてを好まれ、物静かに淡々と語る姿勢は、まさしく静かな奥深さを感じました。本学に残った泌尿器医は素晴らしい教育を授けられ、一人前の泌尿器科医になれるだろうと強く感じました。優しさと厳しさを両面兼ね備えた新進気鋭の教授でいらっしやいます。今後色々なお話をさせていただきたいと思えました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）

小児科学 伊藤 進教授



平成十五年十二月十一日午後一時～二時
於・管理棟三階応接室
出席者・伊藤教授、濱本名誉会長

濱本

伊藤先生とは開学以来の長いおつきあいということになるわけで、気心も知れ、本日をとても楽しみにしていました。お忙しいところ、おいでいただき大変有難うございました。よろしく願います。

さて、早速ですが、このところ小児科医は減っているのでしょうか？

伊藤

減っているわけではないですね。小児科医の分布がいびつなのです。

濱本

分布とは？

都市で便利なところは多いが、地方のしんどいところは少なくあります。今度のスーパーローテートで顕著にあらわれています。富めるところはどんどん富んで、貧乏なところはどんどん貧乏になるという構図ですね。

大人一人診ると子供一人診るのでは診療報酬が違います。保険診療上ではそのことはどこにも表れない。これまで小児の診療でいけなかったことは、数の多い子供を診療して成り立っていましたし、診療報酬を気にしませんでしたので、この現状になってしまっています。病院部門はよほど

しつかりしないといけないですね。

濱本 先生は二十年本学におられて、大学の変化をどのように見ておられますか？

伊藤

山あり、谷ありで、結局は指導者がしつかりしないと大変なことになるといふことです。方向づけを考えていた人がいまままで何人いたかと思えます。一時期、在校生や卒業生が肩身の狭い思いをしたことがありました。そのことが繰り返されないように、透明性を強くする努力が必要だと思えます。教授会や病院運営委員会をガラス張りにした方がよいと思っています。これは一例ですが、情報公開することによって大学の法人化がもたらす幾多の困難を医学部が一丸となって乗り切ることが医学部引いては全学の発展につながると思えます。

濱本

ここの卒業生の印象はいかがでしょう？

伊藤

病院長から小児科はよくやっているといわれました。時間外の救急診療と周産母子センターでの新生児医療の点からの評価とします。何時でもどんな患者でも診ていただきます。

濱本

二十年の歴史の経過した大学としてどうでしょうか。

伊藤

医学部には、それなりに優秀な人材が入ってきています。今は、どのような方向に医学部を発展させるか分からないことが問題です。二十年の歴史を振り返るよりも、今からが大切です。上層部が、大学の人材を育て発掘するのも大切ですが、今ある人材を適材適所で使うことが最も大切です。私が教授になって分かったことは、大学のために努力する人が大切で、特に事務部門の職員が最も大切な人材です。本庁から来られている人達は、国の政策をもって指導

されるのが一般的でしかも長くはおられません。本当に大学のために働いていただけの人は、長くおられる地元採用の人達ですが、その人達が二十一年間で十分に育っているとは思えません。本庁から来られている人達にとって医療費削減が成果であると思いますが、それでは大学の附属病院が成立つとは思えません。その歯止めとして、長年働いてこられた事務の人達の力が必要です。今は、大学の附属病院を含めた医学部の基盤をきっちりとしたものにするのが大切だと思います。

また、大学の卒業生に言いたいことは、医療の現場で医者だけがいばっている場合があるが、技師や、専門の仕事をしている人と医者は対等だという意識が必要です。

ここで事務が中央に報告するとき、この地域での業績が中央に届いているとは思えません。今まではアピール不足と思われる。周産母子センターで本院ほど地域に貢献しているところはないのに、評価が公平に行われているとは思えません。いろんなことが不思議でしょうがないです。講師時代には全くわからなかったことも教授になって視野が広くなりました。話しは変わりますが、小児科医はピュアだと思えます。他の科とちがって少々頑張っても儲けが増えないからピュアなのだと学生にも話したところです。まだまだ話足りない気持ちですが、また別の機会にお話をさせていただきますと思います。

伊藤 濱本
 そうですね。今の興味は、何歳の子どもにダジャレがわかるか研究をしているところですよ。(笑)

コラム：セフレドロン「教授の横顔」

助手時代より本学におられ、臨床の教授になられた唯一の教授だけあって、本学の歴史は熟知されておられ、会話も阿吽の呼吸で進みました。「過去の事は忘れ、医学部の将来像を考えなくてはならない」とのご発言は、伊藤教授ならではのものと思えました。医大とともに生きてこられたまさに我々の同僚的教授で、気さくで、今後、何回も話を伺わせて頂きたいと思え、一時間では話が尽きませんでした。やさしい小児科医の一面を持たれつつも、きびしいまなざしに強く感銘致しました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）



総合診療部 千田彰一教授



平成十五年十二月十五日午後一時～二時

於・臨床講義棟四階会議室

出席者・千田教授、濱本名誉会長、安岐

財務委員長

濱本 お忙しいところ、ご出席頂き有難うございます。忌憚の無い意見を聞かせて頂きたいと思えます。本日は同窓会で財務委員長をしております理事の安岐先生を同席させて頂きます。

安岐 よろしくお願い致します。

濱本 先生は講師時代から医大にいらっしやるということで香川医科大学のことは熟知されていらっしやることと思えます。そうですね。昭和五十六年の助手からですから、約二十二年になりますね。

濱本 開学して二十年を越えましたが、いわゆる新設医大としてそれだけの成長をしているでしょうか？

千田 それなりに、と信じています。もう新設ということは通らなくなってきたと思いますね。今回の卒業臨床研修について同窓会はどのように考えていたのでしょうか？同窓会で議論はされていたのでしょうか？

濱本 当然、同窓会としては母校に残ってもらおうよう努力もし、議論もしています。学生をご覧になっていかがでしょうか？

千田 私の学生時代はいわゆる学園紛争の最後の方でした。何を

やるにしてもみんなが団結して熱っぽかったですね。そういう意味では、今は個別にやる事が増えているからみんながまとまるといことが少ないんじゃないですかね。研究手法もそうですね。だからチーム医療というのに医者が一番なじまない。必要性を感じるころまでいかないのでしょうね。他の職種の人によく参加してくれるんですが。二十年経っても卒業生から一人も学内に教授が出ていませんが。卒業生が教授になるということはいかがでしょうか？

千田 大学に残る率から言って現在の状態は少ないでしょうし、今後はどんどんなっていくかといけません。外で頑張ってもまた大学に帰って来るといいう大学にならないと大学は発展しませんね。私自身も外に出ましたから切実にそう思いますね。

濱本 外から来た人の方が厳しくやっていますね。卒業生の方が甘えていますかね。

千田 そうい面はあるでしょうね。互角に戦える人を出さないと

濱本 そうです。母校に残っているから教授になれるという安易な考え方はダメですね。

千田 ところで、県内の関係病院についてのビジョンは如何でしょうか？

安岐 派遣についてということですか？

千田 それはもう医局単位でやっていくことはナンセンスですね。病院管理者も巻き込んで地域、医療圏という考えでやらないといけないですね。例えば似たようなベッド数の

中小規模病院が専門診療科全部の外来をしたいと言ってももう出す玉がないでしょうし、一人医長では専門医としての成長が期待できない。個別にやるよりは二丁四の病院群で一つの診療体としてやっていく。そこにこちらから一チーム作って派遣する。そしたら患者さんも安心ですよ。それが地域に密接する一番の近道だと思っんです。それをしないとダメですよ。

濱本 大学が派遣の人事を持つという事についてかなり賛否両論ありますけれど？

千田 大学だけではなく、地域中で行政も含めてみんなでやるという考え方でやらないと。

ただ、離島派遣のような特殊なものに対して個別の対応が必要でしょう。

最終的には香川県に残ってくれば香川にとってもマイナスにはならない。

安岐 それでは先生の教室の今後についてはどうお考えでしょうか？

千田 構成員はバックグラウンドもそれぞれ違いますし、研究を希望している人もいます。それでも、個々に外部へ展開してもらいたいと思っています。現時点では、全体の内科を診れる人が少ないですね。以前は卒業後のトレーニングの仕方をそういう風にとつていなかっただからでしょうね。部の教育としては内科医長をきちんとやっていける人を育てていきたいですね。

濱本 今後大学はどんな風になっていくでしょう？

千田 大学のビジョンを一言で語る事はできませんが、香川の大学には香川の大学の生き方があると思っています。大学の

売り物をいかに作っていくか。香川にある大学に係った人をいかに根付いていけるか。病院としては新たな患者さんが来てくれるよう努力をしないとイケません。国立大学の病院長が地域の医療機関へ挨拶に行く時代だという意識を院内各位が持てるか大事なことです。同じスタンスに立ってくれる人を増やさないとイケない。

濱本 卒業生についてはどうお感じになりますか？

千田 医師会に対しても大学に対してももっと積極的に発言して欲しい。例えば最近の在校生の事例で、カリキュラム改正案討議への学生陪席の案内を出しても誰も出席しない。切実な自分の問題であるという意識を持つ必要を感じます。同窓会からもアクションをしてもらいたい。研究についても自分のやりたい研究をやらせないといけない。重箱の隅をつついていけるようなものではダメ。研究のトレンドをつくるような面白い研究テーマを自ら探す努力をして欲しい。研究でも診療でも他がやっている事に追いついても仕方が無い。卒業してからの勝負です。頑張ってください。本日はありがとうございました。

濱本

コラム：セフレドコロの「教授の横顔」

内科出身の総合診療部の教授として、広い視野に立たれ今後の医療、今後の香川大学医学部を見ておられる事に大いに感銘いたしました。先生に頂きましたアドバイス通り、卒業生も一致団結して、大学発展のため議論を戦わせ、大学のためになるような意見を述べようと決意を新たにいたしました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）

臨床検査医学講座 田港朝彦教授



平成十二月十六日午後一時～二時

於・管理棟三階応接室

出席者・田港教授、濱本名誉会長

濱本

本日はお忙しいところ、同窓会の懇談会、教授の横顔にご出席いただき有難うございます。田港先生がこの大学に赴任されたのは平成十年五月ということですが、その時の印象はいかがでしょう。

田港

新設の大学らしく、建物や設備、学生ともに、若々しいという感じがしました。

濱本

学生にはどのような印象をお持ちですか？

田港

この大学に特有というのではないのですが、受験戦争を勝ち抜いてきた頭のいい子が医学部に入ってくるわけですが、いまどきの若者らしく泥臭さが欠けているような気がします。ごじんまりしていて、お行儀よく卒業して、希望することにご勤務して……。そういうところは少し気になります。大学というところで研究を念頭において臨む姿勢も欲しいですね。

濱本

卒業生についてはいかがですか。

田港

優秀な人が多いと思います。僕がよく知っているのは5期生くらいまでですが、教官になっている人が多いですね。初期の人は大きな目標を持っていて、四国、香川に限らず全国で活躍しています。最近の傾向として、多少小粒になってきているかもしれませんが、臨床医になって、どこかに勤務するというのが最初から見えている気がします。もちろん

ん一人一人に聞いたわけではありませんが。ただ、無理もないのは、卒後研修が新しいスケジュールで上から決められてくるから、学生もそれにあわせるので精一杯なのです。卒前教育もすごい勢いで変わっていていますし。

濱本

国立大学も変わっていきませんか？

田港

変わりますね。全国的なものです。医学部の卒業後、昔のように研究、基礎に入るのが難しくなってきました。まず卒後研修でローテートしないと保険医になれない、そのままと基礎に行ってもバイトができない。本当に基礎をやりたい人には、その期間が無駄になるか、完全に諦めてやめてしまつかということにもなります。

濱本

臨床、教育、研究についてはどのようにお考えですか。

田港

大学ですから診療での患者サービスは当然ですが、研究面で何かの仕事をするために我々は大学にいるわけです。我々の分野で言えば、医療の質を上げるために新しい検査で病気を見つけるとか、これまでにある検査でも患者の負担が少ないようにするといったことを目指しています。

濱本

卒業生に望むことはなんですか。

田港

まずは優秀な臨床医になって欲しい。そしてチャンスがあれば臨床でも研究でもこれだというテーマを見つけて、自分の人生の柱が立つような大きなことを目指して欲しいです。なかなか難しいですが、卒後の就職先が少なく難しいです。

濱本

開学二十年のわりにはジツツが少ないような気がします。

田港

行政、大学ともやり方によってはいろいろできると思います。

濱本

外に出ている人は、自分ひとりで一人前になったような気分の人が多いようですが、現実には派遣先は医局の都合で決まる場合が多いですよ。

田港

今年から始まる卒後研修をきっかけにして、ジッツ、派遣を当てる傾向は減っています。今は学閥にしばられて、県内に就職先が少ないですが、そうなると、チャンスが出てくるわけです。今後は国立大学同士で競わされるというきびしい状況になってくるので、まずは四国の中でも抜きん出ないと。大きい手術になると、県の枠を越えてここから岡山、倉敷に行ってしまう。患者の意識は、流動化しているのに、大学や、行政の方が遅れている感じがです。そういうことを常に意識しながら、自分で自分の道を切り開いていく必要があります。これからは卒業できてもそれで終わりではないですね。ぼくらの時代とは違っていきます。

濱本

形成外科の教授選のこともありましたが、卒業生が教授になることについてはいかがですか。

田港

本学卒業生の彼は年が若いし、これからもチャンスがあります。これからですよ。この大学ではないかもしれないが、五十歳くらいを目標にして頑張って欲しいです。今いる講師、助教授に頑張ってもらいたいですね。ただ、研究体制をみても各グループが小さいし、古い大講座と対抗するとき、同じことをしていたら負けます。オリジナリティが大事です。

濱本

今後、臓器別講座はできるのでしょうか。

田港

その方が臨床はいいのですが。部門が増えれば人が必要になります。文科省は増やしてくれないので、今の人数でやらなければいけないわけです。少ない人数で何でもやらなければいけません。旧帝大のように人の数が多いところではそれができますが、新設医大のように少ないところでは、外来は臓器別の方向に動いています。病棟を含め講座は臓器別でいけるかどうかむづかしいところです。ただ、患者が自分の病気でどこへ行けばいいのかわからないのでは

濱本

いけないし、複合した疾患や合併症を持った人は、2つ、3つの科に掛かり易いような工夫をして欲しいと思います。今後の課題はどういったことでしょうか。

田港

これまでに抱えている課題とともに、情勢が変化していることに応じた課題があります。執行部は、柔軟に素早く動いて欲しいと思います。前例をもってよしとするような動きではだめだということです。

濱本

教授会の公開はありませんか？

田港

公開できるものもあるかもしれませんが。

濱本

開学二十年の新設医大の進み方は、同じような感じでしょうか。

田港

それぞれの卒業生の進み方で多少はちがっているでしょう。これまでは十年単位でみていたものが、これからは二三年単位での見方になります。独法化後は自己評価や外部評価によって予算も変わりますから大変です。病院運営費交付金という予算も自動的に一年で前年度の二%減という説もありますから、それで十年もたてばものすごい減額ということになります。病院を持っている医学部は真剣に受け止めています。

濱本

今日はお忙しいところ、ありがとうございます。今後もまたお話などさせていただければと思います。

コラム：セントジョージの「教授の横顔」

物静かに淡々と語る、深みのあるお言葉は年輪が感じられ、初めて会話をさせていただいたとは思えぬほど親しみをおぼえました。臨床検査部の教授として、画期的な検査を創造して頂きたいと思えます。また、教授室にお伺いさせて頂きます。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）

分子細胞機能学 中村隆範教授



平成十五年十二月十八日午後一時～二時
於・管理棟三階応接室
出席者・中村教授、濱本名誉会長

濱本 初めまして。本日はお忙しい中、ご出席頂きまして有難うございます。先生は平成九年にご就任されたのですよね。

中村 そうですね。もう六年にもなりましたね。

濱本 六年も経たれると、大学に対する印象も変わってこられたでしょうし、今回香川大学との統合という大きな出来事もありましたが。

中村 単科大学の良い面、悪い面がありますよね。私も医学部出身では無いからということもあるのですが、他の学部の方と先生さんと接触が無いというのはちょっと気の毒なような感じがしますね。サークル活動もそうですが、色んな人と混じりあった方が将来臨床を行なう際にも良いと思いますね。大学全体を考えると本当は単科大学の方が機動力があるし、身軽なんだけど、仕方ないですね。

濱本 そうですね。それでは、ここの学生の印象はいかがでしょうか？

中村 赴任当初に比べて真面目になっていきますね。ただ、どんどん子供っぽくなっていきます。大人しくなってきたし、そこそこ良い子が入ってきているという感じです。それから、学生に対する教育はシンプルなものが良いと思っています。

古臭いと言われるかもしれませんが、医学部にある昔からのシステムなんか良いように思います。今重要視されているユートリアル教育がどこまで有効かというのもあるんですね。確かにある時期は必要だとは思いますが、それ以外はむしろベーシックなものをきちんと集中的に教えるという事が必要だと思っています。その為には私達の講義もそうですけど、いろんな教材をウェブのサーバに入れて学内の学生は自由に見られるようなシステムを将来的に作らないといけないと思っています。

濱本 後は学生からどういうものを求められているのか、たとえば、一つは国試対策が教育の中でもっとはつきり判る様にしたら良いでしょうね。よく、国試対策の為の教育は良くないと言われるんですけど、それはそれでちゃんとあった方が学生が安心して勉強が出来ると思います。私も本当は国試、国試と言いたくない立場ですけど、学生にとっては国試対策が安心できるということは大事なことです。そのシステムが一つあって、もう一つは医学領域の基礎から臨床までを学ぶシステムの二本立てできちんとしておけば良いと思う。何となく文科省に言われたことをツマミ食ひみたいにしても結局中途半端なんです。そういう中途半端なことをやると人材が少ないのに時間だけ取られてまともがない。

濱本 先生のご専門は何になられるのですか？

中村 内分泌学って言っていますが、実際やっているのは細胞生物学一般的なことになりますかね。元々生殖内分泌系の研究をやっていたんで、こちらの方に内分泌として入ったんです。最近やっているのは砂糖(複合糖質、糖鎖のこと)が

らみの研究ですね。でも、こちらで盛んにやっている希少糖とはまた違うんですよ。日本で糖鎖の研究はある一部では進んでいるが、実際圧倒的にアメリカにやられているんですよ。私は、糖鎖の機能と構造を明かにしようとしているんです。

濱本 なるほど。ところで、現在、卒業生の教授が学内にまだ一人も居ませんが、卒業生が教授になるということはどうお考えでしょうか？

中村 私は卒業生であつても良いと思います。あつても良いという表現が微妙なんですから、どこか外に出られてから又帰ってこられるのが一番ベストだと思います。ずっと中でのまま上がってこられるのは、あまり良くないと思います。私自身、転々としているんですけど、その方が良いと思います。

濱本 私は、大学に積極的に残る先生が増えてくる事を望んでいます。ただ、そのままストレートにいくっていう考えじゃない方がいいですね。外に出しても恥ずかしくないけどそれでもうちに残りたいという人を取らないと。一番ベストは、ものすごく優秀だから絶対外に出したくない人をストレートでそのまま選びたいですね。

中村 やっぱ一人は出したいですね。
濱本 それは当然でしょう。私は出しておかしくないと思いますよ。

濱本 新設医大ということで二十年経ったのですが、どう思われますか？

中村 何を求められているのか判らないんですが、私は理学部出身なので臨症的なことは全然判らないんです。それでも、

外部から見てこの病院が大学病院にふさわしい病院なのかどうかということが大事な事だとも思いますね。やっぱり病院が一番中核だと思っています。医大の二十年という話で言えば、あと、研究面でも目玉が無いですね。大学として研究面でも診療面でも核になるものをいくつか重点的にやっていけば色んな芽が出てくると思います。そう言うことを最初に打出してやれば良いと思います。

濱本 そうですね。新しい発想をしないと目玉は出来ませんよね。他所の物まねではね。

今日は本当に有意義な楽しいお話を有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

コラム：セフレドリュンの「教授の横顔」

基礎医学で唯一の理学部出身の教授。母校にこだわらず教授になられるまで色々な研究所で研鑽され、幅広い見識と大らかさを秘められていらっしゃいます。親しみやすいお人柄で今後内分分泌教室（現 分子細胞機能学）に何度も足を運びたいと存じました。

同窓会名誉会長 濱本龍七郎（S六十一年卒）

保育所アンケート集計結果

回答数77人(男性26人 女性50人 不明1人)

平成15年9月～12月実施

《回答者内訳》

1. 年齢

年齢	20代	30代	40代	50代以上
人数	20	42	14	1

2. 職業区分

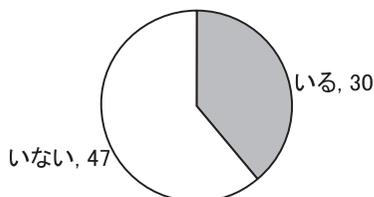
区別	開業医	勤務医	産業医	研修医	その他
人数	4	62	0	7	4

3. 住所

香川県内	47	その他	29
		(東京、埼玉、長野、大阪、京都、滋賀、奈良、岡山、広島、徳島、愛媛、熊本、福岡、USA)	

現在保育を必要とする子供がいますか

ア. いる	イ. いない
30	47



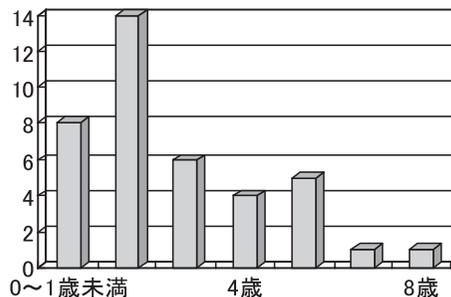
ア. 現在保育を必要とする子供がいる場合(/ 30人中)

1) 子供の人数

☺	1人	☺☺	2人	☺☺☺	3人
	22		7		1

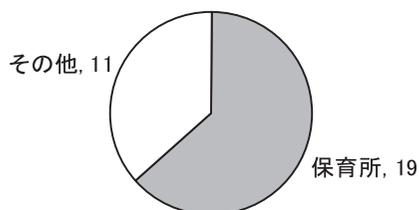
2) 年齢

0～1歳未満	8
1～2歳	14
3歳	6
4歳	4
5歳	5
6歳	1
8歳	1



3) 現在の預け先

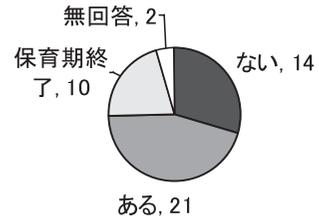
保育所	その他
19	11



保育所アンケート集計結果

イ. 「いない」と答えた方で将来的にはありませんか？（ / 47人中）

ない	ある	保育期終了	無回答
14	21	10	2



Q：ある場合、保育所に入れたいですか

はい	いいえ
20	1

以上の設問と回答より、回答者をA～Dの4グループに大別しました。

現在保育を必要とする子供が	いる	A 現在保育所を利用中（19名）
	いない	B その他の方法で保育中（11名）
		C 将来的には保育所を利用予定（20名）
		D 保育期間終了（10名）

1. 保育所利用の現状と希望

注：A（現在保育所を利用中）およびD（保育期間終了）の方から「現状」を集計、
A、D、およびC（将来保育所を希望）の方から「希望」を集計しています。

保育所の形態

	認可	無認可
現状	21	6
希望	13	5（無認可でも可）

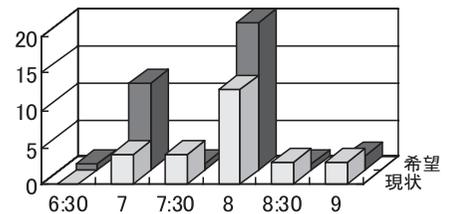
必要とした時に直ぐに入所できましたか

はい	いいえ
23	4（3～15ヶ月待ち）

保育時間は

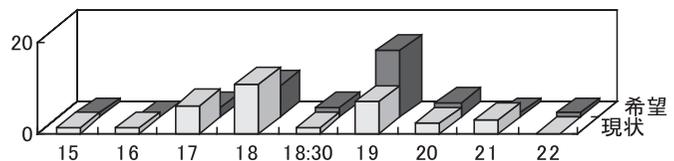
朝

時刻	6:30	7時	7:30	8時	8:30	9時
現状	0	4	4	13	3	3
希望	1	12	1	20	1	2



夕

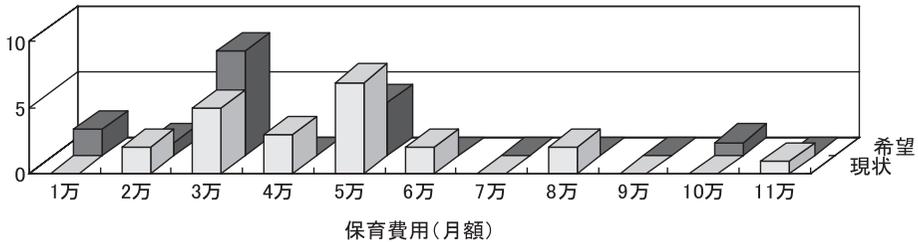
時刻	15時	16時	17時	18時	18:30	19時	20時	21時	22時
現状	1	1	6	11	1	7	2	3	0
希望	1	0	2	7	2	15	3	1	1



その他に24時間体制希望が2名

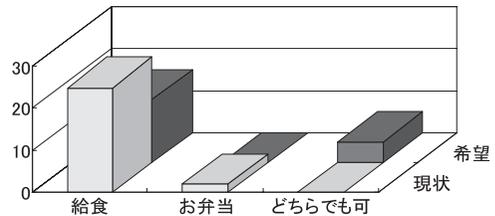
保育費用は

	1万	2万	3万	4万	5万	6万	7万	8万	9万	10万	11万
現状	0	2	5	3	7	2	0	2	0	0	1
希望	2	1	8	0	4	0	0	0	0	1	0



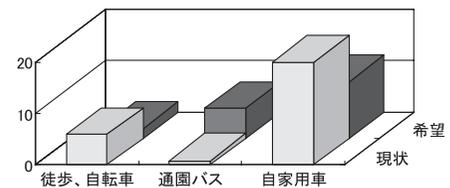
食事は

	給食	お弁当	どちらでも可
現状	25	2	0
希望	15	0	5



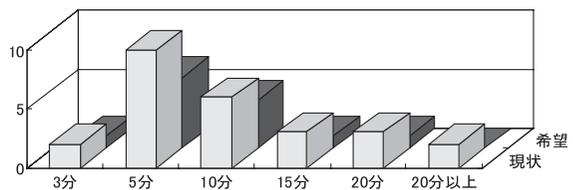
送迎方法は

	徒歩、自転車	通園バス	自家用車
現状	6	1	20
希望	2	6	11



自宅や勤務先からの距離は

	3分	5分	10分	15分	20分	20分以上
現状	2	10	6	3	3	2
希望	1	6	4	1	1	0

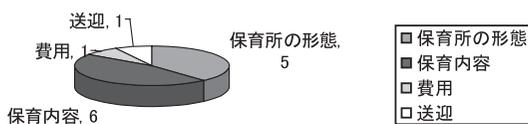


2. 「その他の方法で保育」の方への設問

具体的にどのように保育していますか？

- ・実家 ・勤務先の託児所 ・土日だけ託児所、母親に来てもらっている
- ・ベビーシッター 他

身内以外に預けるとしたら、預ける条件として何を優先させますか？

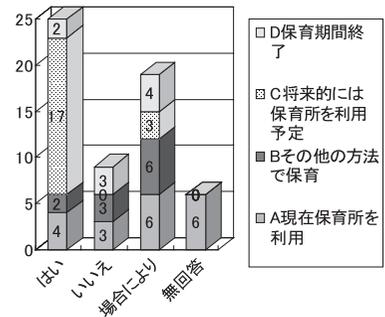


保育所アンケート集計結果

3. 香川大学医学部に保育所があれば

1. 香川大学医学部に保育所があれば預けますか。

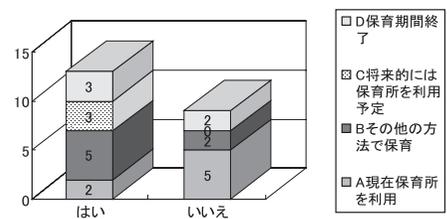
	はい	いいえ	場合により	無回答
A 現在保育所を利用中	4	3	6	6
B その他の方法で保育中	2	3	6	0
C 将来的には保育所を利用予定	17	0	3	0
D 保育期間終了	2	3	4	0
計	25	9	19	6



2. 「いいえ」又は「場合により」と答えた人で

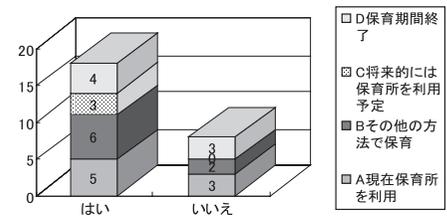
ア. 24時間保育があれば預けますか

	はい	いいえ
A 現在保育所を利用	4	4
B その他の方法で保育	6	2
C 将来的には保育所を利用予定	3	0
D 保育期間終了	5	2
計	18	8



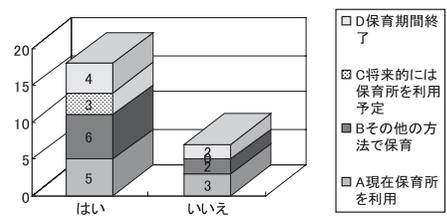
イ. 病時保育があれば預けますか

	はい	いいえ
A 現在保育所を利用	5	3
B その他の方法で保育	6	2
C 将来的には保育所を利用予定	3	0
D 保育期間終了	4	3
計	18	8



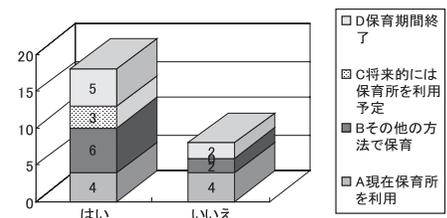
ウ. 保育内容によって預けますか

	はい	いいえ
A 現在保育所を利用	5	3
B その他の方法で保育	6	2
C 将来的には保育所を利用予定	3	0
D 保育期間終了	4	2
計	18	7



エ. 保育費用が安ければ預けますか

	はい	いいえ
A 現在保育所を利用	2	5
B その他の方法で保育	5	2
C 将来的には保育所を利用予定	3	0
D 保育期間終了	3	2
計	13	9



オ。「香川大学医学部の保育所」に預けたくない理由があればお聞かせください。

A「現在保育所利用中」の方から

- ・他県に勤務中 ・自宅から遠い
- ・遠いことが問題で近くに住んでいけばもちろん預ける
- ・阪大内の保育所に預けている

B「その他の方法で保育中」の方から

- ・職場で預けたくありません ・USAに滞在中で預けることが不能の為

4. 何かご意見・ご質問があればお聞かせ下さい

- ・院内にぜひとも24hr.対応の院内保育を作って欲しい。院内の保育環境、又は院外にても充分でないため、辞職せざるを得ない職員が看護師を始めとしてたくさんいると思います。(香川県 男性)
- ・私方は自ら育児する方針であり、そうでない人には保育園は必要だと思います。他大学でも、あるところがあると聞いています。実現に向けて頑張ってください。(香川県 男性)
- ・大学病院敷地内に保育所を作ろうといった運動があるのでしょうか。私は在学中に長女が生まれ、生後2ヶ月から無認可保育所(とても悪いところでした)にお世話になりました。妻と2人だけの子育てで苦労しましたが、勉強にもなり、今は懐かしい思い出です。人間としてずいぶん成長したと思います。皆さんも仲間とともに子育てを楽しんでください。(香川県 男性)
- ・大学だけでなく、香川県全体でNPOなどと協力して進めていくのも一法ではないでしょうか。(香川県 男性)
- ・大学内に保育所があれば、大変助かると思います。女医さん(女性職員)も女医さんの属す部局も。(香川県 男性)
- ・学童保育、障害児教育、24時間保育にぜひ取り組んで下さい。保育内容に関しては、高松市立が全般に高いのでお手本になると思います。(香川県 女性)
- ・まだ職場内でのサポートが十分でないことを実感。男性医師(子供を持つ方もそうでない方も)の理解と協力がかかなり必要とされると思う。(県外 女性)
- ・おそらく普段は自宅に近い保育所に預けると思うが、大学で時間外、休日保育や病時保育で、一時預かり受け入れをしてもらえる就非常ありがたいと思う。共働きしているので、金銭面は多少無理がきくので、安くなくてもしっかり見てくれる方がありがたい。(香川県 女性)
- ・大学で勤務する場合には、保育園が絶対必要だと思います。(香川県 女性)
- ・女医さんが増えており、保育所はぜひ必要だと思います。早く作って下さい。(香川県 女性)
- ・女性医師の働きやすい環境がもっと必要と考えます。(大阪府 女性)
- ・徳島大学医学部附属病院に看護部がつくった通称「あゆみ保育園」(正式名「授乳所」)が昔からありノウハウが蓄積されてます。(現在預けていますが良い保育をしてくれます)きいてみてはいかがでしょう。(徳島県 女性)
- ・今後保育園は絶対必要です。2人目を考えていても現状の保育制度では無理です。24hr 預かってくれる園があれば理想的です。ぜひとも保育園設置をお願いします。(香川県 女性)
- ・私は香川在住ではありませんが、後輩のために是非保育所を医大内に作ってあげて下さい。(特に24hr.保育や病時保育)(東京都 女性)

保育所アンケート集計結果

- ・子育て中に、大学病院勤務は大変ですが、保育園+実家でなんとか頑張っています。地方になる程、ベビーシッター等のサービスが少なく（東京がうらやましい！）地元出身者以外はきびしいのではないかと思います。是非香川医大内に病時もOKの保育所を作り、後輩の女性医師に活躍していただきたいものです。（福岡県 女性）
- ・香川医大に院内保育がないのは、本当に遅れていると思います。絶対に必要です。女性が働くために作って下さい。費用より何よりも優先させることだと思います。（香川県 女性）
- ・現在子育て中ですが、産後仕事に復帰できたのは、職場内に託児施設があったためです。（認可保育園はいっぱいでしたので）香川医科大学内にも多くの女性医師、看護師が働いています。（岡山県 女性）
- ・現在育休中ですが、もうすぐ復帰です。実家にも頼れないので保育所を探さないといけません。病時保育、24時間保育があれば助かります。又、給食は必ずついていてほしいです。香川に戻る予定はありませんが、母校に充実した保育所が出来、女性が出産後も復帰しやすい環境ができることを願います。（熊本県 女性）
- ・大学内に保育所があれば非常に助かります。当大学は女性の学生の割合が多く、女性にとって入局先を決める際に、子育てをしながらの勤務が可能かどうかは、重要な条件です。（香川県 女性）
- ・秘書さん、看護師さんも合わせるとかなりの数の人が病院の保育所を希望していると思います。ぜひ、実現したいです。（香川県 女性）
- ・24時間保育（せめて夜間保育）と病時保育がなければ働けません（Drとして）。是非なんとかして下さい。（愛媛県 女性）
- ・病院内に、院内スタッフなら誰でも利用でき、かつ病児保育も行える保育施設があれば、医大出身の学生が残りやすく、かつ帰って来るきっかけにもなるのではないのでしょうか。（香川県 女性）
- ・学内保育は必要です。又、医員以上の立場になると当然、当直があり、女医には厳しい現実でした。24hr.の保育があればと思います。望もうと望まざろうと女医は増えます。現実に対応しないと、医局から人材が流出すると思います。（香川県 女性）
- ・保育期は初めての経験で不安もある上、時間の制約が大きく、大変でした。保育園の同園のお母様方に何かと助けて頂き、なんとか過ごせました。（香川県 女性）

保育所アンケート作成にあたり、滋賀医科大学同窓会湖医会様のご指導、ご協力をいただきました。謹んでお礼申し上げます。

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

国外留学助成金公募のお知らせ

香川大学医学部医学科同窓会では、本学の発展に寄与することを目的として、本学研究者の国外留学に対して以下の要領で助成事業を行っています。平成十六年度第一回締め切りは三月末日です。留学予定あるいは現在留学中の正会員は是非ご応募ください。

対象 : 香川大学医学部医学科同窓会正会員の一年以上の国外留学

助成額 : 年間数件程度、総額一〇〇万円以内

申請方法 : 所定の申請書(同窓会事務局に申請して下さい。)

締め切り : 平成十六年度第一回 平成十六年三月末日

平成十六年度第二回 平成十六年九月末日

提出先 : 〒七六一〇七九三

香川県木田郡三木町池戸一七五〇一

Tel & Fax (〇八七) 八四〇二二九一

e-mail : dousou@kms.ac.jp

審査方法 : 期間内に応募された讃樹會国外留学助成金交付申請に対して、一次審査基準に基づき学術委員会において書類審査を行い、理事会に答申する。理事会では一次審査経過を確認の上、二次審査基準をもとにそれぞれ

の申請に対する採択の是非と給付金額を決定する。(一次・二次審査基準の詳細は同窓会事務局にお尋ね下さい。)

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

会長 高橋 則尋

学術委員会

委員長 木村 正司



事務局からのお知らせ

- 1、会員名簿二〇〇四年版をお送りします。今回から、末尾に「県別勤務先一覧」を追加しました。会員のみなさまのお役に立てるよう、見易く便利な名簿となるよう工夫しています。ご意見、ご希望がございましたら、「ご連絡ください。」連絡先不明の方につきましても何か情報がございましたら、ご一報いただければ幸いです。
- また、あいかわらず名簿業者らしき問合せがあります。そのため、事務局への問合せにつきましては、情報流出とならないよう慎重な上に慎重な返答をさせていただいていますので、何か失礼がございましたらご容赦ください。名簿の管理、および古い名簿の破棄の際には充分に注意していただきますようお願いいたします。

- 2、会員のみなさまにおかれましては年会費を納入いただき、誠にありがとうございます。すでに「ご承知の通り、今回から名簿・会報は会費納入の方にのみお送りすることとなりました。ただ今回の会報に限りましては、総会開催案内および会長選挙の投票方法説明を掲載しています都合上、全会員に送付させていただきます。しかし名簿につきましては完全未納の方にはお送りできませんので是非とも納入いただきますようお願いいたします。納入を確認次第、送付させていただきます。

- 3、保育所アンケートにご協力いただきありがとうございます。回答を集計しましたので是非ご覧下さい。

- 4、異動をお知らせください。勤務先や現住所の変更、結婚等による改姓、などの異動がございましたらお知らせいただけますようお願いいたします。メール、ホームページのメール、異動連絡票フォーム、などをご利用いただければ手軽かと存じます。

E-mail dousou@kms.ac.jp

HP <http://www.sanjukai.jp>

お詫びと訂正

前号P38の「讃樹會ロゴマーク募集」に掲載させていただきました。また他大学ロゴマーク一覧におきまして、滋賀大学医学部湖医会は、滋賀医科大学同窓会湖医会の誤りです。滋賀医科大学同窓会湖医会の関係各位におかれましては、ご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます、訂正申し上げます。

編集後記

同窓会の皆さん、いよいよ本年四月からは香川大学も独立法人化になります。昨年は香川医科大学が統合され香川大学になり、引き続きの制度改革で大学の中も騒然、雑然としています。卒後臨床研修が必須化される四月、幸か不幸かこの独立法人化もスタートするわけで大学職員のあり方も問われています。

先日、独立法人化に向けて、医学部での説明会で木村学長が説明されました。「大学の特色を生かし、地域に根ざしたプロジェクトを立ち上げていこう」とおっしゃられておりましたが、職員としてできる限りのことをやっていかなければならない、と自覚も新たに決意しました。その説明会の中で、「独立法人化は民営化とは違う」と、説明されていましたが、職員としてもはや国家公務員でなくなることは、言い換えれば民間企業と同じ効率性、能率性が求められるものであり、いつまでも税金を垂れ流すような自堕落な職員は当然リストラの対象になるものだ、と身を引き締めてプロとしての自覚を持っていかねばならないと念じた説明会でした。

さて、ようやく同窓会会報も軌道に乗り始めましたが、残念なことに今回が最後になる同窓の方々が多数いらっしやいます。会費未納が五年以上の方には今回が最後の会報、名簿であります。「別に香川大学にいた事を懐かしむようなセンチメンタルなものではない」とおっしゃる方も多く、同窓会の活動があくまで会費制になっている以上、今後は理事会の決定どおり未納者には送付されないこととなります。資金の脆弱な同窓会ですから、先の独立法人のはなしではありませんがこれ以上会費未納者にコストのかかるサービスを提供するわけにも行きません。今後は理事会の決

定どおり、未納者には送付されない方々も多くなるとは思いますが、同窓会の会費を後でいただければ、その時点で送付は可能です。長きにわたり、同窓会誌編集に携わってまいりましたが、私も任期満了ということで編集委員長を解かれたる事になりました。次期編集局長には同窓読者が興味ある内容の特集し、会員に大学発のフレッシュな情報発信を続けていただければ幸いです。

編集委員長 清元 秀泰

